

賃上げで景気の底支えを！「休み方」「働き方」改革で長時間労働を撲滅！



2015 春季生活闘争ニュース

2015. 3. 20

4号

編集：連合北海道組織労働局

賃上げを地場中小へ波及させよう！

3月18日(水)・20日(金)の8:00~8:30 札幌駅と地下鉄麻生駅にて、街頭宣伝行動を行い、月例賃金引き上げと景気の回復を訴えた。

集中回答指定日の18日(水)は、札幌駅南口にて街頭宣伝行動を行った。石狩地域協議会山本副事務局長から、2015春季生活闘争は月例賃金の引き上げにこだわった闘いであること、一時金が増えたとまずは貯蓄に回り、個人消費は伸びない傾向が強いことなどを訴え、交渉に臨む労働組合への理解と支援を訴えた。

民主党中央区副代表の藤川雅司道議会議員候補予定者は、景気を回復するためには、労働者の賃金を上げることが重要であり、特に非正規労働者が多い北海道では、全体の底上げ・底支えが必要不可欠であると呼びかけた。



藤川雅司副代表(中央)



山本副事務局長



通勤者にのぼりでアピール！

第1のヤマ場の最終日である20日(金)には、地下鉄麻生駅にて3度目の街頭宣伝行動を実施した。バスや地下鉄の乗降客が行き交う中、北区選出の民主党道議会議員 向井昭彦さんが応援弁士として駆けつけ、中小企業がほとんどを占める北海道では、非正規労働者を含む労働者全体の底上げが図られないと、景気回復にはつながらないことを訴えた。

また、石狩地協 太田会長からは、今年の春闘は賃上げに進んでデフレから脱却できるかどうか、時代の分水嶺になる大きな節目であり、賃上げに大きな意味あいがあることを呼びかけた。

永田組織労働局長からは、ベースアップなどがマスコミで報道されているが、中小の経営者はまだ先行きの不透明感を理由に、なかなか賃金引き上げに踏み込んでいない。大手製造業のベースアップを地場中小企業に波及させていかないと、地域の景気は回復しないので、春季生活闘争に結集している多くの仲間理解を寄せ支援してほしいと訴えた。



石狩地協 太田会長と向井道議(右)



冷え込む朝の通勤時に横断幕で訴えた

3月10日から本日まで札幌市内を走行したテープ街宣行動では、足をとめて耳を傾ける人が多く見受けられるなど、賃金引き上げに対する期待の強さを実感した。